

# スポーツイベントと九州経済

## ～スポーツの交流人口増加による地域活性化～

### はじめに

熊本にとってのビッグチャンスであるラグビーワールドカップ（10月）、県内3市で分散開催される女子ハンドボール世界選手権（11月～12月開催）の二大国際スポーツ大会開催を間近に控え、国内外からの観光客の受け入れ機運が高まっている。本稿では、スポーツイベントを契機とした持続的な地域の活性化について、スポーツと地域資源を掛け合わせたまちづくりや地域活性化を主要な活動とする地域スポーツコミッション等の例を取り上げて考えてみたい。

### 1 九州におけるスポーツイベント

- ゴールデン・スポーツイヤーズの幕開けを、熊本への交流人口拡大の契機として捉える必要。
- 一般の観光客に比べ滞在期間が長い傾向にあるスポーツツーリストによる観光消費額は多く、継続的な受け入れ態勢づくりが重要。

#### (1) 続く“ゴールデン・スポーツイヤーズ”

国内では、今年のラグビーワールドカップ（以下、ラグビーW杯）、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年の関西ワールドマスターズゲームズと世界的なビッグイベントが連続して開催される。ゴールデン・スポーツイヤーズと称されるこの3年間は、九州においても大型スポーツイベントの開催が相次ぎ、開催都市やキャンプ地をはじめ、各地でこの機運に乗じたまちづくりへの期待が高まっている（図表1）。

九州の受け入れ地域では、まちの魅力とスポーツ観戦を結び付けることで誘客したり、スタジアム・アリーナなどの新設・改修や運営面で民間活力の導入などが進められている。

図表1 九州における大型スポーツイベント（2019年以降）

開催日程		大会名	開催都市
2019	9月20日～11月2日	ラグビーワールドカップ2019	熊本市、大分市、福岡市
	11月30日～12月15日	2019女子ハンドボール世界選手権大会	熊本市、八代市、山鹿市
2020	7月24日～8月9日	2020東京オリンピック	東京都他
	8月25日～9月6日	2020東京パラリンピック	東京都他
	10月3日～10月13日	第75回国民体育大会	鹿児島県
	10月24日～10月26日	第20回全国障害者スポーツ大会	鹿児島県
2021	5月14日～5月30日	ワールドマスターズゲームズ2021関西	大阪府他
	7月16日～8月1日	第19回FINA世界水泳選手権2021福岡大会	福岡市

資料：各大会ホームページ等を基に当研究所作成

(2)ラグビーW杯・女子ハンドボール世界選手権大会の熊本、九州への経済波及効果

①熊本への経済波及効果 (2019年)

熊本県は、図表2の二つの国際スポーツ大会開催の経済波及効果を約190億円と試算している。このうち、ラグビーW杯は98億円（熊本県での観戦客数は約6万人、うち訪日外国人は約1万2,000人と想定）、女子ハンドボール世界選手権は92億円（同約22万人、うち訪日外国人約2,500人）となっている。

図表2 熊本で開催される国際スポーツイベント

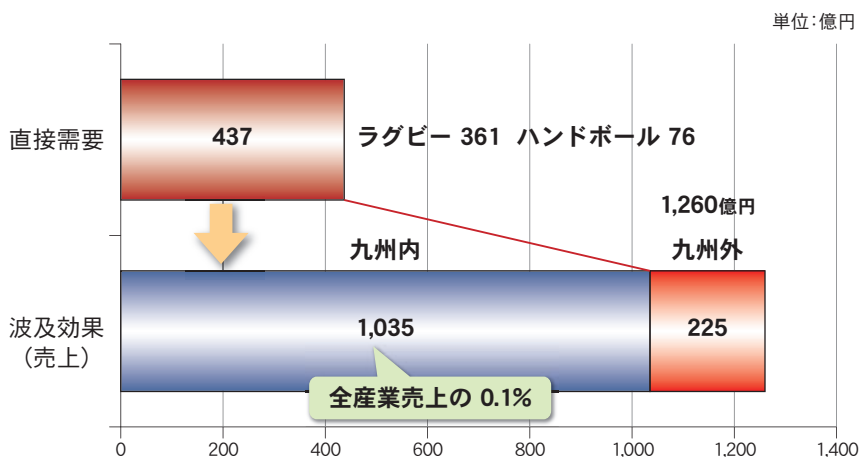
大会	ラグビー W杯2019	女子ハンドボール世界選手権
開催日程	10月6日(日) フランス VS トンガ  10月13日(日) ウェールズ VS ウルグアイ	11月30日(土)～12月15日(日) (参加国は6月頃決定予定)
開催場所	熊本県民総合運動公園陸上競技場 (熊本市)	パークドーム熊本、アクアドームくまもと、 熊本県立総合体育館 (以上、熊本市)  八代市総合体育館、山鹿市総合体育館

②九州への経済波及効果 (2019年)

さらに、ラグビーW杯は福岡市、大分市でも開催が予定されており、開催県間の周遊等も含めた経済波及効果を当研究所で推計すると、九州内で約1,035億円、九州外で約225億円（計約1,260億円）の売上の増加が見込まれる（図表3）。

また、スポーツツーリストは一般の観光客に比べ滞在期間が長い傾向にあり、観光消費額も多いことから、単なる一時的なイベントで終わらせるのではなく、これを契機とした継続的な地域づくりや地方創生が求められている。

図表3 2大国際スポーツイベントの九州における波及効果



資料：当研究所推計

## 2 スポーツを契機とした地域の課題解決

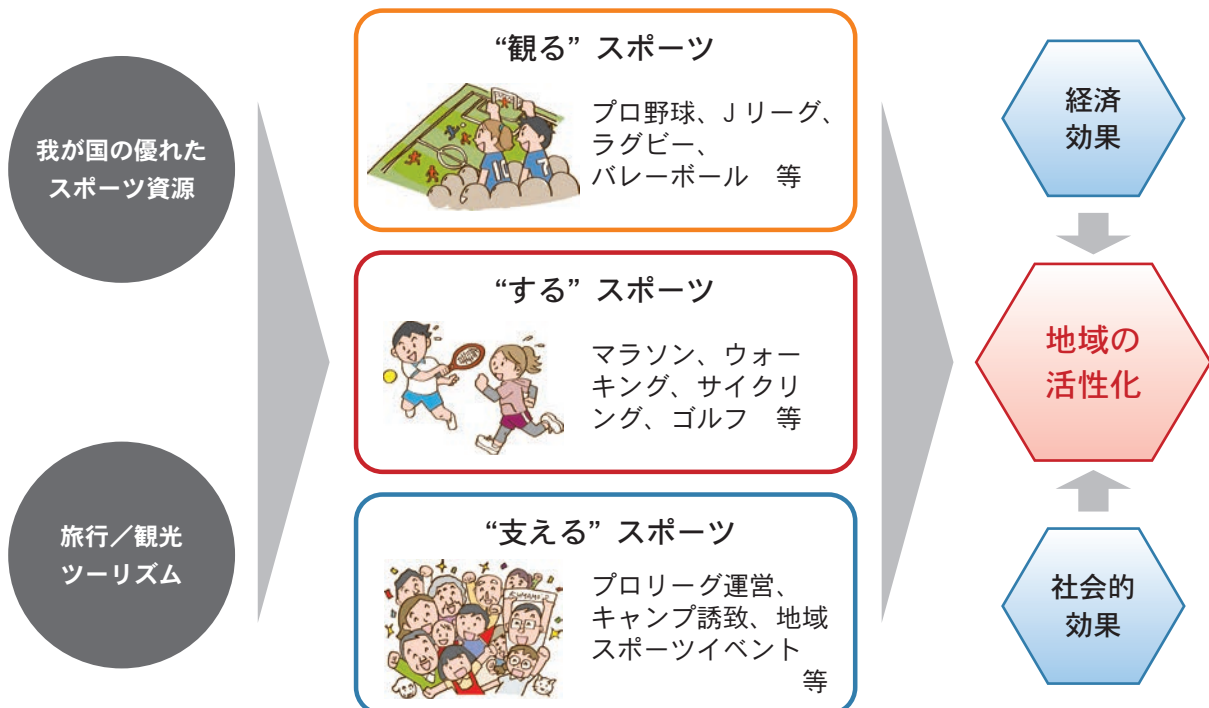
- 有望産業であるスポーツ市場規模は、2025年には約3倍の15兆円に拡大見込み。スポーツツーリズムによる地域活性化が急務。
- スポーツツーリズム推進や、持続性のあるスポーツイベントの開催などにより交流人口の拡大を図る地域スポーツコミッションへの期待が高まる。

### (1) スポーツツーリズムによる交流人口の拡大

文部科学省が定める第2期スポーツ基本計画（以下、基本計画）では、「スポーツを通じた経済・地域の活性化」が施策の一つとして掲げられている。その中で、政府はスポーツを有望産業ととらえ、スタジアム・アリーナへの投資、健康志向の産業拡大などを通じてスポーツ市場規模を2012年の5.5兆円から2020年までに10兆円、2025年までに約3倍の15兆円に拡大することを目指している。

また、政府はスポーツを通じた地域活性化を目指しており、スポーツへの参加や観戦を目的として地域を訪れたり、地域資源とスポーツを掛け合わせた観光を楽しんだりするスポーツツーリズムによる交流人口の拡大を図ろうとしている（図表4）。具体的には、観光、運輸、流通、スポーツ用品、健康産業等、関連する民間事業者と連携したプロモーションを行い、地域の資源開発や、関連商品の開発等の後押しをすることで、スポーツツーリズムの需要喚起や定着化を推進している。本県においても、欧米からの誘客が見込まれる国際大会の開催地として地域の魅力を存分に伝え、まずは国内外からの交流人口を増やし、移住人口や定住人口をはじめとする関係人口の拡大につなげる必要がある。

図表4 スポーツツーリズムとは



資料：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構「スポーツツーリズムについて」

## (2)地域スポーツコミッション

ゴールデン・スポーツイヤーズ以降を見据えた持続的かつ発展的な地域活性化の取組は、まだ少ないとみられる。このような中、スポーツツーリズム推進や、持続性のあるスポーツイベントの開催などにより交流人口の拡大を図る組織として注目を集めるのが、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業等の民間事業者が一体となった「地域スポーツコミッション」(以下、地域SC)である。

スポーツ庁は、図表5の4要件に合致した活動を行っている組織を、地域SC推進組織として集約している。基本計画では、2021年度末までに全国の地域SCの設置数を170(2018年10月現在99)にまで拡大することが目標として掲げられており、熊本県内では南関町スポーツコミッション、スポーツの里づくり推進協議会(上天草市)、肥後おおづスポーツ文化コミッション(大津町)がある。

ラグビーW杯をはじめスポーツツーリズムで域外から訪れる観光客の多くが、あまり知られていない地域固有の伝統や習慣、背景にあるストーリーの体験を望んでいるとされる。例えば、今年度のスポーツ庁の取組として武道全般のイベント支援が挙げられているが、剣道の全日本チャンピオンを多数輩出している本県にとってはチャンスである。田原坂をはじめ西南の役の史跡が多数あり、歴史的、文化的価値が付随する“ラストサムライ”を見届けた地として海外観光客向けにPRできる可能性がある。各地域には、このような隠れた地域資源が多数あるとみられ、今後地域SCがこれらのニーズの受け皿として機能することが期待される。

図表5 地域スポーツコミッションとは

地域スポーツコミッション
<p>《要件1》 常設の組織であり、<u>年間を通じて活動</u>を行っている。(時限の組織を除く)</p> <p>《要件2》 スポーツツーリズムの推進、イベントの開催、大会や合宿・キャンプの誘致など、<u>スポーツと地域資源を掛け合わせたまちづくり・地域活性化を主要な活動の一つ</u>としている。</p> <p>《要件3》 地方自治体、スポーツ団体、民間企業(観光産業、スポーツ産業)等が<u>一体となり組織を形成、または協働して活動</u>を行っている。</p> <p>《要件4》 特定の大会・イベントの開催及びその付帯事業に特化せず、スポーツによる地域活性化に向けた<u>幅広い活動</u>を行っている。</p>

資料：スポーツ庁「地域におけるスポーツ振興の取組について」

### 3 自治体の取組事例

- 鹿島アントラーズは、鹿行5市（鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市）をホームタウンとし、チーム発足以来、地域と共に歩んできた。
- Jリーグクラブ初の事例として設立された「アントラーズホームタウンDMO」との連携の中で、地域が抱える課題解決へ向けた取組みも行っている。

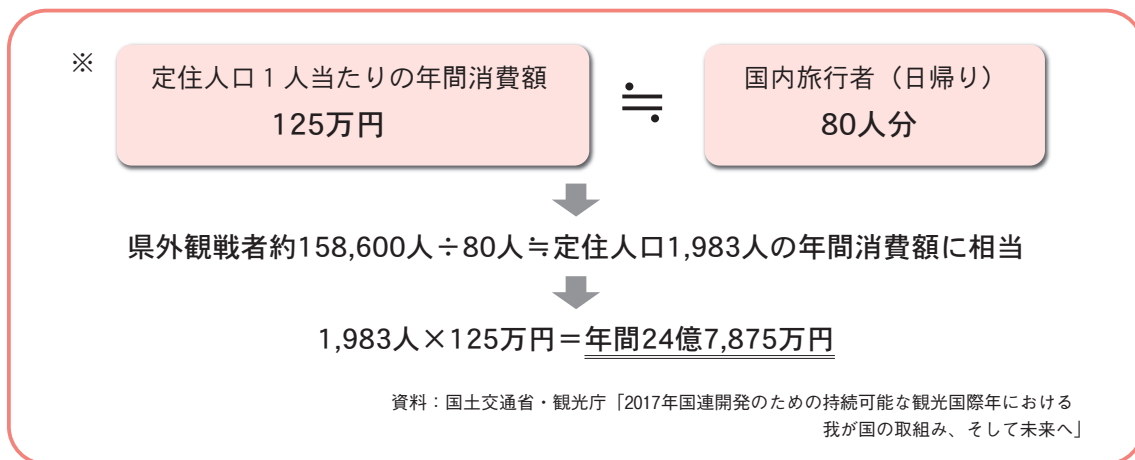
#### (1) 鹿島アントラーズ

1991年に、地域の活性化をミッションとするプロジェクトの中で鹿島アントラーズ（以下、アントラーズ）が誕生し、2006年から現在のホームタウン5市体制がスタートした。この鹿行5市は、それぞれに文化や豊かな自然などの特徴を持つが、2019年1月1日現在の5市合計の人口は約27万7千人と、定住人口の減少が進む地域でもある。そのような中で、アントラーズは地域課題の解決へ向けた様々な取組みを行っている。

#### 【主な取組み】

##### ① “交流人口増加” による経済貢献

2018年のアントラーズ公式戦総入場者数は約44万人で、そのうち約36%の約15万8,600人が県外からの観戦者である。これを定住人口に換算すると1,983人※で、年間で約24億8,000万円の消費が生まれていることになる（アントラーズ試算）。



##### ② ターフプロジェクト

アントラーズでは、カシマスタジアムに使われる芝生について天然にこだわり、2018年に「ターフプロジェクト」の事業化を発表。芝生の研究・開発とともに、保温システムの独自開発などを行っている。今後はこの芝生を国内の競技場を中心に横展開させていくことで、鹿行地域を“芝生の産地”として成長させ、基幹産業でもある豊かな農業を活かしたさらなる地域活性化も期待される。

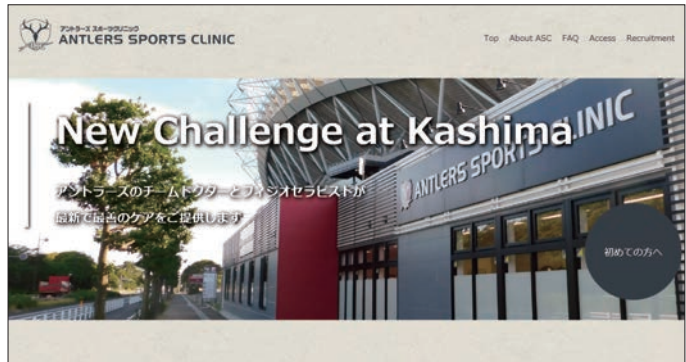


(写真) カシマスタジアム 5月29日研究所撮影



③ “医療過疎地”における高度医療の提供～アントラーズスポーツクリニック～

2015年8月に開業したアントラーズスポーツクリニックでは、住民に対しアントラーズのチームドクターや理学療法士によるトップレベルのスポーツ医療が提供されている。鹿行地域における医療過疎対策に大きく貢献しているだけでなく、県内外の高齢者、学生を含むアスリートへ向けた地域医療の提供においても大きな役割を担う。



資料：アントラーズスポーツクリニックHPより

(2)アントラーズホームタウンDMO

アントラーズホームタウンDMO（以下、DMO）は2018年4月に設立され、アントラーズが20年以上かけて築いたチームブランドを最大限活用しながら各団体と連携し、市単位に限定しない広域でのトップスポーツの振興によるスポーツツーリズム（合宿等の受入れ）と、「地域の稼ぐ力」を増強する事業の展開を目指す官民一体型の法人である。

図表6 アントラーズホームタウンDMO事業の全体イメージ



資料：一般社団法人アントラーズホームタウンDMO提供

おわりに

今後、本県ではJ R熊本駅周辺の整備、八代港のクルーズ拠点整備、阿蘇くまもと空港の民営化が予定されており、九州中央に位置する陸海空の玄関口としての機能が強化される。国際スポーツ大会等を通して熊本を世界に発信する機会が増えることとあわせてスポーツツーリズムの地域モデルを創出し、スポーツによる地域課題解決への期待も高まる。そして、九州と世界をつなぐ結節点として本県がスポーツイベントの経済効果を九州全体に波及させるゲートウェイとして果たす役割は大きい。